

「しよむない事から、嚙合かみあを仕たのやが、いまだに仲が直らんので、私が仲裁に這入つたんやが、どうしても治りがつかんね」

「友達同志や、放つて置く譯にいかん、一ツ鴻池の大將を頼んで話を付けて貰おゝか」

「それが宜かろう、一緒に行つて頼もう」

と鴻池へ参りまして話をしますと、

「ヨシ、其様な事なら、一遍連れておいで、私から仲直りをして遣る」

「どうぞお頼う申します」

と、白と黒を連れて参りますと、

「コレ、お前等か喧嘩をしたのは」

「ヘイ」

「コレ、喧嘩はするなよ、噛んでも夜が寝にくいし、噛まれても夜が寝苦しい、喧嘩ほど損なものはない、サア是れを食べて仲直りをせい、必ず喧嘩をする事ならんぞ」

と云ふて聴かしますので、大將々と皆が尊敬します、次の犬は表へ出るなり、車に挽かれて、クワンと云ふたが此の世の別れ、一番末の犬が性質が悪い、彼方では盗み食いをしたり、此方では拾ひ食いをしたり致しますので、病氣になりました、ソロ／＼毛が脱けだしましたが、犬の毛の脱けたの

は厭らしいもので、家へ歸ると丁稚が厭がつて足で蹴つたり、棒で殴つたりするので、家へ歸る事が出来ぬ様になりました。行く處が無いので場末へ落ちました。船場邊の丁稚が使いに行つた歸り、焼芋を買ふて皮を抛り、皮を抛りした、その丁稚の尻に付いて船場へ参りました。そうなると、歩くのも愁歎な歩きやうをしてる、今橋通りをば通らうとすると、町内の若い者やない犬が見付けました。

「オイ一丁目、今向ふから來る奴は此邊で見た事のない奴ぢや、場末の奴に違ひない、此町内を言葉も掛けずに通るとは、野放のほうす主な奴ぢや、一つウタハシテやろうか」

「それも宜かろう、ウタハシテやれ、お前は彼方からおいで、私は此方から行つて、双方から挟み打ちにして遣ろう」

「宜し、腕力でいて遣ろう」

犬にわん力は面白い、双方から

「ワン／＼／＼」

「ワン／＼／＼」

と噛み付きに來ましたが、相手は病人、たまりません、ヒヨロ／＼と逃げて参りました。調度、鴻池の大將、お天氣が宜いので、表の敷居へ顔を乗せて、世間を見て居る前へ

「コレ／＼、何をしたのんぢや」